

# Ledy Home Doctor

レディアホームドクター

## 診察室

## CKD(慢性腎臓病)について

尿タンパク所見や腎機能低下する

慢性腎臓病が3カ月以上持続

CKDとは「Chronic Kidney Disease」の頭文字で、慢性腎臓病を指します。病気の原因にわからず、尿タンパクが出ていたりなどの腎疾患の存在を示す所見がある病態、または中等度以上の腎機能低下の病態のいずれかが3カ月以上持続する場合に「CKD」と診断されます。

2004年末現在、世界の透析人口は130万人とされています。日本の透析患者数は29万7126人(2010年12月)で、毎年約3万人が透析を新たに始めています。世界の透析患者の約5人に一人が日本人という計算で、岡山県内でも2010年12月現在、4426人の方が透析治療を受けています。

透析患者の大半が糖尿病

透析患者で一番多いのは糖尿病で、全体の43.5%です。推測される日本人のCKD患者数は約1330万人。成人の8人に一人が

CKDであるという計算で、CKDは「新たな国民病」といわれるようになってきました。また、最近ではCKD患者は心血管疾患になりやすいことが統計的に分かってきました。そこで、日本では2006年に「日本慢性腎臓病対策協議会」が設立され、本格的なCKD対策が始まっています。

早期発見が重要

生活習慣の改善で予防に努めて

職場の健診や住民健診などで尿タンパク陽性を指摘されても、自覚症状がないので放っておく人が多いのが現実です。しかし尿タンパクが陽性の人は、陰性の人の2倍以上の速さで腎機能が低下してしまうので、まずは早期発見に努めることが大切です。



解説医師

原口 総一郎 先生

岡山第一病院 副院長兼診療部長  
佐賀大学医学部医学科卒業。九州厚生年金病院、佐賀大学医学部附属病院、佐世保共済病院腎臓内科部長・内科部長を経て、2011年より現職。日本内科学会認定内科医、日本腎臓学会専門医、日本透析医学学会専門医・指導医など取得専門医多数。

■岡山市中区高屋343 ■TEL.086-272-4088

URL:<http://www.okayama-daiichi.jp>

かかりつけ医にも相談を

最近では、かかりつけ医と専門医の連携が深まり、腎臓病患者を守ろうという働きかけが積極的に行われています。健康で長生きできるよう、日ごろから腎臓を大切にしましょう。

腎臓病を予防するには、生活習慣の改善が重要です。減塩やバランスのとれた食事(脂質制限)はもちろん、禁煙や適度な運動に努め、糖尿病や高血圧のある人は医療機関で治療を受けることが大切です。腎機能が低下すると、タンパク質の摂取制限や貧血管理などが必要となる場合があります。ちなみに血圧の具体的な治療目標は130/80mmHg未満(尿タンパク陽性の場合は125/75mmHg未満)です。